

1 互いに成果を共有できる地域連携手法案-1

手法-1 地元の人達を中心とする組織づくり

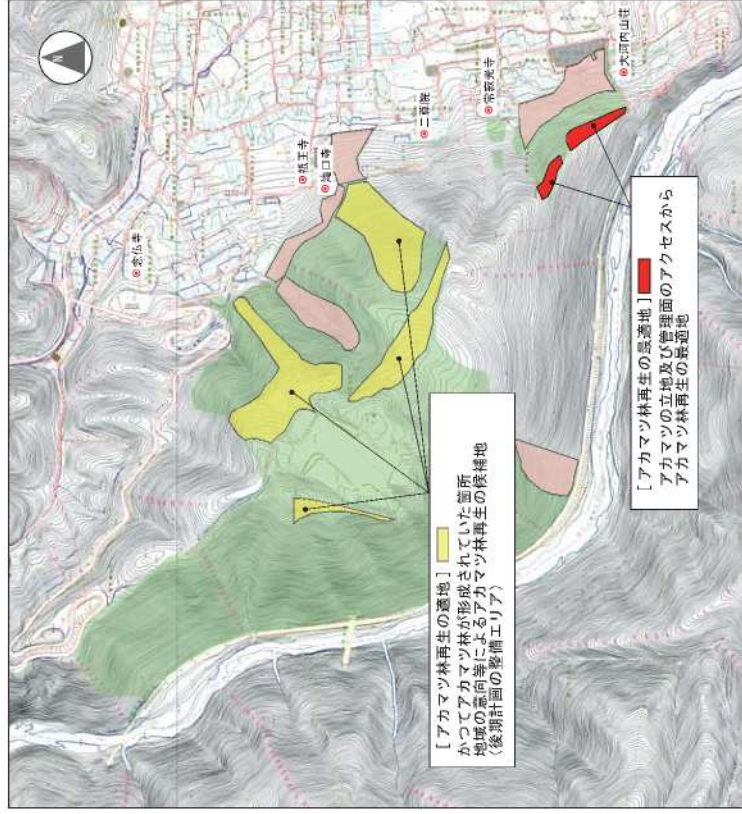
◎目的

持続的な小倉山の森林再生を行うためには、「森づくり活動」や「獣害対策」についての検討が必要である。

「地域ぐるみによる森林景観づくり」

ガイドラインに基づく自然配植による植栽手法は、基本的には維持管理をあまり行わずに、森林景観を向上させる手法であるが、地域の強い意向により、アカマツを再生する場合は、定期的な維持管理が必要となる。そのため、地元社寺・自治会連合会等の地域組織、NPO、事業者などと連携した、「地域ぐるみによる森林景観づくり」を進めるためのしくみを整えていく。

なお、アカマツを再生する箇所は、当面は小規模なエリアで実施し、森林景観づくりのためのネットワークを徐々に広げながら、再生エリアの拡大を検討する必要がある。また、これまでから地域の大学と地元社寺等が連携して小倉山の森林景観づくりに取り組みされており、今後、このような地域の学校における環境教育を通じた森林景観づくりにも積極的に取り組んでいく。



※ 図中の赤に着色したエリアを維持管理する場合の目安として、月1回程度、2～3時間/回、10～20人/回程度の作業量と考えられる。

「獣害対策に必要な組織づくり」

シカの食害による森林被害が著しい小倉山で、次の方法により獣害対策の実施を検討する。
ここでは、実施方法を挙げる。

1- 森林整備を行う新たな植栽箇所について

新たに植栽された樹木については、防鹿柵(バッチャフェンスなど)で保護を図る。

■ 写真実例

京都市「四季彩りの森復活プロジェクト」によるバッチャフェンス設置例(兼山)



2. 既往の森林植生箇所や社寺境界部について

広大な面積をゾーンデザインフェンスにより保護する方法が考えられるが、小倉山においては効果的にも良策とは考えにくく、特に一部破壊するとシカの侵入を許すこととなり、維持管理や点検作業も定期的に行う必要があるなど負担も大きい。

そのため、小倉山においては、関連機関と緊密な連携を図るとともに、地域活動組織の協力による「くくり罠」等の捕獲についても検討し、将来的なシカの生息数の管理を図る。

【くくり罠の事例】



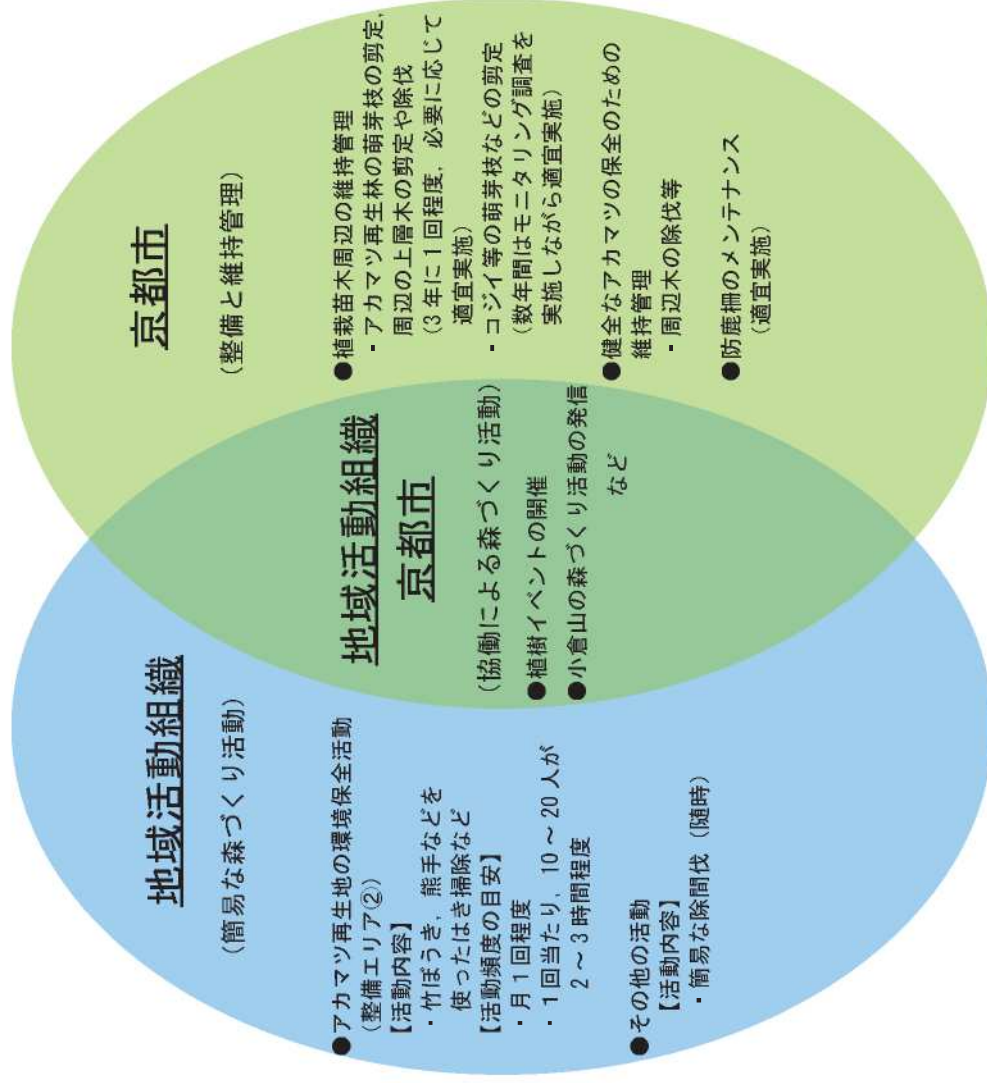
※くくり罠の設置は、わな猟免許が必要である。

くくり罠と設置例 (出典：北海道森林管理局)

(1) 年次計画と地域活動

事業年度	前期計画			後期計画			地域活動					
	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
H25年度 (1年目)		伐採・植栽(市)										★簡易な森づくり活動 ★小倉山の種子採取・苗木栽培 ★くくり置の研修・試行実施 ★②植栽イベント開催 (地域性苗木を使用)
H26年度 (2年目)	伐採・植栽(市)											
H27年度 (3年目)	伐採・植栽(市)		森林遊歩道の整備(市)									★竹林を活用するイベント (竹炭づくりなど)の開始 ★①植栽イベント開催 (地域性苗木を使用)
H28年度 (4年目)				伐採・植栽(市)								
H29年度 (5年目)												★活動の総括と発信 ★①植栽イベント開催 (小倉山産苗木を使用)
H30年度 (6年目)												植栽・伐採
H31年度 (7年目)												維持管理(市と地域活動組織の協働)
H32年度 (8年目)												維持管理(市)
H33年度 (9年目)												維持管理(市と地域活動組織の協働)
H34年度 (10年目)												維持管理(市と地域活動組織の協働)

(2) 地域活動組織と市の役割分担



2 互いに成果を共有できる地域連携手法案-2

小倉山の森林再生を継続的かつ無理なく進めていくには、互いに成果を共有でき、森林景観づくりに携わる者が喜びを感じる仕組みをつくる必要がある。ここでは、その方策として一例を挙げる。

手法-2 散策路の検討

◎目的

継続的に小倉山の森林再生を行いつつ、嵯峨嵐山の活性化を図っていくためには、森づくりに携わる者が、互いにその成果を共有できる仕組みをつくる必要があり、その方策の一例として、既存の登山道を活用しながら、新たな散策路を検討することなどが挙げられる。

【期待される効果】

- ・森林を身近に感じられることにより、興味や関心、愛着を持っていただくことができる。
- ・四季の彩りのある美しい森林景観を散策することができる。
- ・散策路を整備をすることにより、精神面（小倉山の森林景観の向上による喜びや安らぎ、経済面（観光資源としての魅力が増す）を充実させることができる。が豊かになることが期待される。

【課題】

- ・社寺敷地内を通過する場合、通り抜けへの対策、防犯や防災面などの検討が必要である。
- ・何度も散策してみたいという気持ちになる取組み（見られる期間が限定される花、紅葉）が必要である。

四季の彩りを感じる散策路

右に示す写真は、1本のサクラを魅せる造園的な配植の工夫により、四季の彩りを身近に感じることができ、散策路の一例である。



「ひよもの枝垂れザクラ（嵯峨嵐山）」
 スギ・ヒノキ植林内に根回り約6m、新周り4m、高さ枝葉りともにも2.0mを超す日本が森林景観にアクセントを与えている。

